

歯学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

ICTを用いて、歯科医療に必要な情報の収集・整理を適正かつ適切に行うことができる。

【到達度】

- 歯科医療に関する情報の所在・構成・背景を説明できる。
- 医療情報や健康情報の信頼性を識別できる。
- 情報の取り扱いを社会秩序に照らして、適正に行える。
- 情報検索とソフトウェア（ワープロ、表計算、プレゼンテーション）等の基本的な情報処理ができる。

【教育内容・教育方法】

- は、歯科医療に関する情報のWebサイトにアクセスさせ、情報の多様性と利用の限界を体験させる。
- は、多様なメディアから提供される情報の正当性を文献検索、成書により判断させる。
- は、情報の無断使用、盗用について事例をもとに解説し、内心に働きかけて、加害防止・被害防止できるようにさせる。
- は、課題に対して得られた情報を、ソフトウェアを用いてまとめ、表現させる。

【到達度確認の測定手段】

- と は、実習を通じて収集した情報の検索先、情報量等により、情報収集力の適切性を確認する。
- は、事例研究を通じて、レポート、口頭試問等により確認する。
- は、演習を通じて、発表資料の工夫、発表方法等により確認する。

【到達目標 2】

EBM（エビデンス・ベースド・メディシン）に基づく歯科医療の提供を目指すために、収集した医療情報を分析し、課題の実証・問題の発見に役立てることができる。

【到達度】

- EBMの重要性を理解し、科学的な視点で利用できる。
- 目的に沿って医療関連データを収集し、比較・分析できる。
- 比較・分析結果について、問題点を抽出し、批判的に捉えることができる。

【教育内容・教育方法】

- は、適切な臨床研究データに基づいて、科学的な視点から診療判断させる。
- と は、ランダム化比較試験RCT、その他の臨床研究を図書館医療情報検索システムMEDLINE等を通じて検索させ、批判的に考察させる。

【到達度の測定手段】

- ～ は、臨床で遭遇する問題に対する回答をエビデンスとともに提出させ、確認する。

【到達目標 3】

医療に関わるICTの概要を理解し、歯科医療への利用を考えることができる。

【到達度】

- ICTの仕組み（関連法規を含む）機能を理解できる。
- 医療情報システム（電子カルテ）の取り扱いができる。
- 医療における個人情報保護の重要性を認識し、管理することができる。
- 医療情報についてネット上（テレビ会議等）でコミュニケーションし、情報の共有を通じて、

臨床判断の多様性を知ることができる。

【教育内容・教育方法】

は、講義で、ICTの現場情報をフィールドワークさせ、基本的な仕組みを理解させる。

は、クリニカルクラークシップで電子カルテ操作実習を行う。

は、講義、事例研究で病院における情報管理と個人情報保護について教え、実践させる。

は、グループ学修の中で、課題症例に対するPBLを行わせる。

【到達度の測定手段】

～ は、小テスト、口頭試問、レポート、プレゼンテーション、実技試験等により確認する。